

反比例の我が身を痛感させられている。

そんな訳で、以前は関心のなかつた「ぐんぐん」にも度々通い「ちびっこ広場」など安全に交流できる公共施設を身近に感じ、若い家族にも必要と思う。

(かりた ゆきお・長岡市)

孫育て奮戦記

春 野 緑

私の娘は三人とも結婚をしてそれぞれ出産した。その結果、私には四人の外孫がいる。長女は同じ町内に住居していて、一女・一男の子育て真つ最中だ。娘夫婦は、公務労働に従事している。しかし、残業や休日出勤などで、厳しい労働環境だ。住居が近いため、私は孫の養育に多く関わっている。その様子を紹介する。

養育面・・・平日夕方は、孫守タイム

一女は、小学校2年生で、放課後は学童保育に預けられている。午後6時半までがタイムリミットなので、6時前には、お迎えをする。好天の時は徒歩で迎えに行き、娘夫婦のどちらかが帰宅するまで私の家で過ごす。育ち盛りなので、とにかく「お腹がすいた!」を連発。そのため、おやつ準備が欠かせない。

娘夫婦の出張・残業のため、夕食を提供することもある。また、孫の病気の時には、終日面倒をみることも。

一男は、私の自宅近くの保育園に預けられている。延長保育で、夕方7時まで保育可能。娘は職場を出て7時前に保育園に行き、一男を迎え、その足で一女を迎えに来る。

教育面・・・少しでも手助けできれば

学童保育のお迎え途上、草木や天候・天体について、積極的に話題としている。自然や周囲の変化に敏感な感性を培いたいからだ。また、自宅では宿題の面倒をみている。音読・プリント・漢字、計算ドリル等、毎日沢山の課題が出されている。かなりの多さだ。ぼけ防止に、うってつけ。

「共育」の楽しさ

退職と同時に孫守が始まった。子ども子育て経験を思い出し、孫守を進めている。老け込んではいられない。人生の励みだ。

保育園の行事に「祖父母の会」があり、日頃の保育活動の成果を見せてもらっている。また、運動会・作品展に参加することで、孫達の成長の証を見つけ出すことができる。人生の喜びだ。(はるのみどり・新潟市)